

# 調査報告概要表

作成日 2008年5月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4675300141
法人名	医療法人 健育会
事業所名	グループホーム つどいの家
所在地 (電話番号)	始良郡始良町鍋倉224-1 (電話)0995-66-3533

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年5月28日

## 【情報提供票より】(20年 5月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 13 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	9.4

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.3 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	たけうちクリニック・大井病院・竹内歯科・竹内レディース
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が残る住宅集落地に建っている。ホーム周囲は季節の花々を植えてあり、ホームの裏手には菜園を設けるなど、利用者が和める環境が整っている。一人ひとりの「あるがままの姿」を受け入れてケアするという姿勢が管理者をはじめ職員からうかがえ、地域催事の参加を通して、住み慣れた環境での生活の質を高めることを目指している。同一法人の医療機関との連携のもと、24時間連絡体制で利用者の健康管理を行い、家族からの信頼も厚い。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については、職員とともに検討し改善計画を作成し、取り組み状況と結果を記録として残している。「運営推進会議の記録整備」や「研修計画作成」についても整備され、「市町村との連携」は地域包括支援センターを中心に関係づくりを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民の代表や第三者委員、地域包括支援センター職員の出席のもと、2ヶ月に一度定期的に開催されている。地域の催事や災害時の協力等について、意見を出してもらい運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から職員に対して何でも話せる雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るよう配慮している。出された苦情や要望は、「苦情ノート」に記載し職員全体で話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会の催事へは積極的に参加し、近隣保育園や老人クラブ等との交流を図っている。日常的にホームに立ち寄りてもらうほか、避難訓練には近辺住民も参加する等、地域の協力体制が整っている。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域環境で安心して過ごせるという地域密着型サービスの趣旨を反映させた理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、毎月のミーティングにおいて理念の具体的な実践について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園や老人クラブ等との交流を図っている。地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みも計画的に行っており、課題については概ね改善されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表や地域包括支援センター職員が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当部署や地域包括支援センターへの訪問・相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、毎月書面をもって報告しており、職員の異動時にはその都度に挨拶を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細をノートに記載して職員で改善にむけて話し合いを行っており、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、法人内研修やホーム内勉強会を行うと共に、外部研修には交代で出席しているものの、職員各自の段階に応じた研修が行われているとは言いがたい。	○	今後は職員各自に応じた段階的な研修として、採用時研修や新人研修などの研修内容を具体的に検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良伊佐地域のグループホーム協議会に加入しており、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、他のホームの職員と交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔なじみの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜を職員と利用者が一緒に栽培したり、料理の下ごしらえをする中で共に過ごす関係を築いている。体を動かすレクリエーションも頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多々設けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画作成をしている。職員の気づき、家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、評価は3ヶ月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。また、地域自治会の老人会を招待し(サロンの会)、ケーキやお茶をふるまい、ともに楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針と医療連携加算に関する指針を重要事項説明書に明記し、サービス利用開始時に家族に説明し同意をもらっている。過去に看取りケアの事例があり、その際にも職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は、日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらい、食前の嚥下体操を楽しむことの一つとして取り入れ、和やかな雰囲気を作っている。職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、無理強いせずに変更するなど、個別に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事や編み物等の趣味を楽しんだり、他の利用者の世話をすることでそれぞれの役割を見出している。職員は、車椅子の利用者も力を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴など日常的に屋外に出るほか、地域行事への参加を支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、外出傾向がある場合はさりげなく一緒に散歩にでるなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や地域住民の協力を得ているが、災害時に必要とされる備蓄の管理が十分でない。	○	懐中電灯などの備品は準備されているが、食料や飲料水などの備蓄も災害時には必要となるため、今後は整備されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1600キロカロリーの食事提供を目安にしており、法人内の栄養士からアドバイスをもらっている。嚥下に支障のある利用者には、とろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者は、和室やソファなど思い思いの場所でくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や思い出の写真をはじめ、テレビや位牌、趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。		